七夕まつり開催！

旧暦だったら、真夏の夜の天井に、天の川がくっきりと浮かんでいたのでしょう。1年に1回しか逢瀬がない「七夕」を、よりによって梅雨のまっさい中に決めてしまうとは……。

昨年に引き続き、今年もホ号棟では地域ぐるみの「七夕まつり」を開催しました。

7月5日（土）は、朝からムシムシとした天気。ソーメン、おでん、やきとりなどの食べ物の仕込みはもとより、万が一、雨が降ることも想定してのブルーシートによる天井張りや、机、イスなどによる会場づくり。実行委員会やお手伝いの人達は、夕方までに汗びっしょり。

一服していると開会時間がすぐにやってくる。ホ号棟中に携帯マイクで「七夕まつりが開催されますよ～！」と流して歩く。

もうすっかり慣れてしまったのか、「七夕まつり」に集って来る人々の出足は早い。

百円玉を握りしめて、たくさんの子ども達も空を飛んで売店に群がる。

5時の開会宣言時には、会場はビッシリと参加者で埋まる。

式の進行もなんのその、今やホ号棟名物になった植樹帯の孟宗竹で作った器に盛られるソーメンに舌鼓を打つ。

少し落着くとずらりと並ぶ売店に向かいホ号棟名物の「おでん」や「やきとり」を注文したり……。

ひとりで食べるよりもみんなでおしゃべりをしながら食べる、それは数倍、数十倍おいしい。

雨の心配などから、少なめに仕入れた「やきとり」などは、ほんの 20 分程度で売り切れ。
乳飲み子から 90 歳を越える方が、同じ場所で楽しそうに「七夕まつり」を過す。
小学生のおにいちゃん、おねえちゃんは《お手伝い隊》のネームプレートを胸に「いらっしゃいませ～！ビールいかがですか！」「きゅうりのお新香はいかがですか！」と天にも届く大声でお客さんに呼びかける。
　この日はテレビドラマの「ロト 6 で 3 億 2 千万円を当てた男」の撮影もすぐ隣りの染地幼稚園を舞台に行われていた。マイクはもとより、子どもの澄んだ声も撮影の集音マイクに入ってしまうと、見張りの関係者から発声ストップの声がかかる。
そんなことで元気なおしゃべりを止めることはできないし、また競いあうような食欲を止めることはできない。
提供する食べ物、飲物が底をつきはじめた頃には「家庭用花火大会」へ舞台が移る。
子ども達が実行委員から配られる花火を咲かす。
付き添いのおとうさん、おかあさんも一緒に嬉しそうだ。もうもうとする煙と鮮やかな色で咲く花火。
あたりを見渡せば、まだ明るいではありませんか。でも子ども達にとって薄明かりでも花火はきれいなのだ～！
こうして夏の夜は、次第々々に更けていく。
　次は秋の「芋煮会」が予定されている。今度は誰が手伝ってくれるのかな……。